



かえ下

楓

お盆号

『精進料理』とは

しょうじんりょうり

『お盆中は精進料理を食べなきゃダメなんですか。』と質問をうける事があります。お檀家さんの中には、お盆の間は魚のダシを使うことなくお料理される方もいらっしゃるようですが、

そもそも『精進料理』とはどういうものなのでしょう。ただ単純に肉・魚を含まないものとお考えの方も多いと存じます。

精進料理とは、『精が進む』と書き、その名の通り『心も体も健全に、そして日々一生懸命に生活するための料理』であると私は考えます。

ですから、我が子の成長を願い、また家族の健康を考えて、皆さんが愛情込めて作った料理は、たとえばそれがカレーライスであろうと、焼肉であろうと、それは立派な精進料理であると思います。

我々が勘違いにおちいりやすいことですが、野菜などの植物も、動物や魚と同じように生きているということ。ナスを切ったからとい

って血を流すわけでもないですし、きゅうりを収穫するときに「痛い」と叫ぶわけでもないですから、どうも殺生したという感覚が薄くなりがちですが、やはり我々と同様に生きている訳です。

世の中の生き物はすべて生きたいと願って活動しています。鳥が空を飛ぶのも、木が葉を茂らすのも、みんなそうです。しかし、人間は他の動物や植物の命を奪って生きているのです。ですから、非情な事ですが、命はすべて大切だからといって、すべての命を大切にすることとは残念ながらできないことなのです。

ここで、前世について私の好きな考え方がありますので紹介したいと思います。

昔、覚海という高野山の検校という高い位についている立派な和尚が、浄土真宗をお開きになった親鸞上人に『わたしの前世は何だったのでしょうか。』と質問なされた時に、親鸞上人は次のようにお話しされました。

『あなたは、最初は天王寺の西の海のハマグリとして生まれた。浜岸に打ち寄せられた時に、子供が天王寺の金堂にお供えし、舍利讚歎の経を聞いたご縁で、死んだ後、天王寺の飼犬として生まれ変わった。日頃から本堂で唱える陀羅尼経を聞いたご縁で、今度は荷物を運ぶ牛に生まれ変わった。今度は般若心経の経本を荷物として背負ったご縁で、馬に生まれ変わった。熊野参詣の人を運ぶ馬として何度も熊野本宮にお参りしたご縁で、やっと寺の下男として人間

に生まれることができた。寺で灯明をつける仕事をした時に、人々を明るく照らした功德で、今度は神仏をまつるお堂の防人として命を授かる事ができた。防人として僧侶達が行う三密の行法を常に目に見て、耳に触れた功德により、今の検校という地位に生まれることができたのだよ。』とお教えになりました。

人間は他の生き物の命を頂戴して生きております。命を頂戴するから『いただきます。』と言ってから食事をする訳です。また、頂いた命の来世がよりよいものである事を願う気持ちも忘れてはいけません。ですから、食事のときには『なむあみだぶ。今度は人間に生まれてこいよ。なむあみだぶ。』という気持ちで手を合わせてあげましょう。

普段の生活では、なかなかこのような気持ちになる事はなくても、せめてお盆の間は食事の前に、頂いた命の来世がよりよいものになるよう、どなたにでも唱えられる『南無阿弥陀佛』のお念仏を唱えてからお食事なされてはいかがでしょう。

また、里帰りされたご先祖様と家族皆さんが仲良く楽しい食事を共にいただけるような本当の意味での『精進料理』をいただいで、のんびりと健やかで愛情満ちたふるさとでのお盆を過ごしたいだければ幸いです。

(副住職 大悟 九拜)



お盆中のおねがい

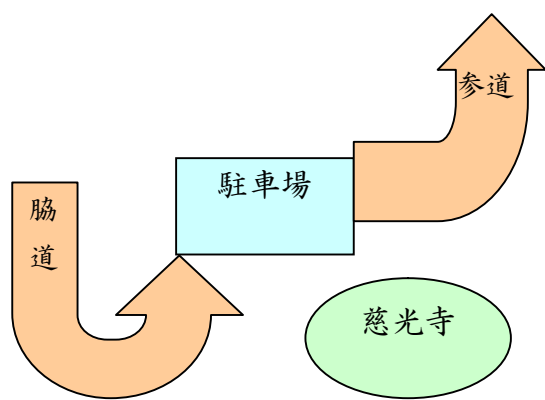
ゴミは必ず持ち帰りましょう。

現在焼却炉は久慈市の条例により使用不可能です。燃えるゴミであっても必ず持ち帰り皆様各家で処分されるようお願いいたします。ご先祖様が里帰りなさる慈光寺の景観を汚す事のないように重ねてお願いします。



車でおいでのの方は決まった道順で走ってください。

お盆中は大変駐車場が混雑します。お盆中は杉並木の参道を開放いたしますので、おいでになる方は左の図のように、これまでどおり脇の道を通って駐車し、お帰り際には参道側から帰られるように一方通行の形を取りたいと思いますのでよろしくお願いします。なにぶん狭い駐車場で皆様には大変ご不便をかけますが何卒ご協力の程をよろしくお願いします。



古くなった塔婆などのお焚き上げ

古くなった角塔婆や板塔婆、仏壇やお盆用品などはお盆を迎える前に処分しましょう。部屋同様にお墓もきれいにしてお帰りのご先祖様をお迎えしましょう。慈光寺では毎年左記によりお焚き上げを厳修しております。お焚き上げを希望する方は指定の場所に前日までに持ってきておいて下さい。それ以後は来年まで一切受付しませんのでご注意ください。

日にち

八月十三日(日)

お焚き上げ場所

慈光寺新墓地脇

(立て札があります。)

慈光寺の見どころの紹介



本堂脇にひっそりと、それでいて慈光寺の庭園とまるで一体となったかのようなたたずまいで、本堂にお参りする皆さんを合掌してお迎える『一遍上人像』です。

昨年の開山忌の際に寄贈されたこの石像も慈光寺の景観をよりいっそう引き立てて下さいました。皆様からのご寄進により年々当山も立派になっております。この場を借りて、厚く感謝申し上げます。

参道清掃のお願い

お盆を迎えるにあたり、参道の清掃をする慣例により、寺の境内墓地をお持ちの檀家さんの勤労奉仕をお願いすることになっております。参道に各地区の標示をしておきますので、七日盆までに一戸あたり一坪見当で清掃するようにご協力をお願い致します。

お墓へのお供え物について

お盆中にお墓に供えたお供え物・生花・盆旗などは必ずお持ち帰り下さい。放っておくとカラスが食い散らかし、ひどい時にはスズメバチが集まって大変危険です。お盆中里帰りをしたご先祖様もお盆が終われば、また極楽浄土へとお戻りになります。「立つ鳥、跡を濁さず」と願うご先祖様のためにも、十六日の送り盆には必ずお墓を清掃して気分よく旅立たれるように、我々も協力してあげましょう。



これからの慈光寺行事予定

10月21日 慈光寺開山忌法要

添付の趣意書をご覧のうえ、是非ご参加下さい。

11月上旬 慈光寺檀家旅行

岩手県南方面

※詳細はおって連絡します。